

数値目標の検討について

数値目標	項 目	※※政策7の市民が便利になったと感じる数値目標の検討について				目標種別	
	評価者	企画振興部長 藤木 洋司			担当課	経営企画課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
7-1	目 標	－	－ 個	－ 個	－ 個	－ 個	
P76	実 績	－ 個	－ 個	－ 個	－ 個	－ 個	
	評 価	－	－	－	－	－	
	委員からの ご意見	例えば「書かない窓口」のように相談窓口の「改善の数」のように、住民の利便性に関する指標を加えることが必要かと思います。さらに、市民が実際に「便利になった」と感じているかを調査することで、行政サービスの実質的な改善度を把握できるはずです。数値目標化が難しい部分もありますが、補助的な指標を取り入れてより本質的な評価をめざしていくべきだと考えます。（村林委員）					



検討	項 目	※※市民が便利になったと感じる数値目標の検討について	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	住民の利便性に関する指標についてのご指摘ありがとうございます。住民の利便性を測る指標へのご指摘ありがとうございます。例示していただいた「相談窓口の改善数」については、例えば戸籍住民課においては、近年「お悔やみコーナーの設置（H29）」「書かない窓口（R2）」など行っておりますが、こうした目に見える改善には限りがあり、総合計画4年間（R6-R9）で計数するのは、現時点では難しいと考えています。他の指標として、例えば「主要な窓口の平均待ち時間」については、前述の理由により、当面は業務スキームの合理化による時間短縮をめざすこととなりますが、劇的な変化は見込めないことが課題と考えています。住民の利便性に関する指標については、今後も課題として考えておりますことから、引き続き検討してまいりたいと考えます。		

数値目標	項 目	※※道路が住民にどの程度便利さを提供しているかという数値目標について				目標種別	
	評価者	建設部長 松本 尚久			担当課	土木課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
6-5	目 標	－	－ 個	－ 個	－ 個	－ 個	
P67	実 績	－ 個	－ 個	－ 個	－ 個	－ 個	
	評 価	－	－	－	－	－	
	委員からの ご意見	完成した道路が住民にどの程度便利さを提供しているか、所要時間が短縮されたか、交通量が減ったかといった具体的な改善効果を評価する視点があると、より分かりやすいと思います。こうした効果を明確に示すことで、道路整備の意義がさらに理解されやすくなるのではないのでしょうか。（藤田委員）					



検討	項 目	※※道路が住民にどの程度便利さを提供しているかという数値目標について	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	大変重要な視点と受け止めております。旅行速度や交通量など具体的な指標化には、市道の場合定期的な調査は行っていないため、改めて調査費用や体制の確保が必要となり、現行の枠組みではご提案の指標を導入することは難しい状況です。また、近年の道路事業は、安全な道路利用を目的とした既存道路の拡幅事業が多いことから、なかなか具体的な数値評価に反映しにくいという事情もございます。そのため、当面は現行の目標指数を維持させていただき、併せて、利便性の向上が図れる指標の検討をしていきたいと考えています。		

数値目標	項 目	観光施設の宿泊者数（飯南・飯高地域）				目標種別	↑
	評価者	地域振興担当理事 蒲原 智之			担当課	飯南地域振興局・飯高地域振興局	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
4-2	目 標	－	19,704 人	20,136 人	20,568 人	21,000 人	
P49	実 績	19,272 人	21,410 人	－ 人	－ 人	－ 人	
	評 価	－	S	－	－	－	
	委員からの ご意見	令和6年度実績が令和9年度目標を既に超えているため、目標設定をし直すべきではないか。（岩崎会長）					



検討	項 目	(数値目標の見直し検討について)	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	今年度、グリーンライフ「山林舎」は4月より休館しており、過去3年間の年間宿泊者数の平均は約1,600名でした。また、新たに「飯高駅コテージ」が4月に開業しており、年間利用者数は600人を見込んでいます。そのため、目標値は現状の数値を基準とする方針です。		

数値目標	項 目	市ホームページにおける月平均閲覧数				目標種別	→u
	評価者	危機管理特命理事兼秘書広報局長 中西 章			担当課	広報広聴課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
7-2	目 標	－	220,000 件	220,000 件	220,000 件	220,000 件	
P78	実 績	219,906 件	223,360 件	－ 件	－ 件	－ 件	
	評 価	－	S	－	－	－	
	委員からの ご意見	令和6年度実績が令和9年度目標を既に超えているため、目標設定をし直すべきではないか。（岩崎会長）					



検討	項 目	市ホームページにおける月平均閲覧数				目標種別	↑
	評価者	危機管理特命理事兼秘書広報局長 中西 章			担当課	広報広聴課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
7-2	目 標	－	220,000 件	230,000 件	240,000 件	250,000 件	
	実 績	219,906 件	223,360 件	－ 件	－ 件	－ 件	
	評 価	－	S	－	－	－	
	見直し内容 経緯・理由	ご指摘のあった点について。250,000件まで伸長する目標値を検討させていただきます。					

数値目標	項 目	過去一年間に学校以外で文化財施設に一回以上行ったことのある児童生徒の割合				目標種別	↑
	評価者	産業文化部長 岡田 久			担当課	文化課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
4-3	目 標	－	児71 生61 %	児72 生62 %	児73 生63 %	児75 生65 %	
P50	実 績	児70 生62 %	児81 生61 %	－ %	－ %	－ %	
	評 価	－	S	－	－	－	
	委員からの ご意見	令和6年度実績が令和9年度目標を既に超えているが、意識調査結果による指標は、単年度で超えていても、R7の結果いかんによる見直しとするべきか。（岩崎会長）					



検討	項 目	(数値目標の見直し検討について)	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	令和6年度実績は、宝塚1号墳出土埴輪が国宝に指定されたことによる当年度限定の様々な取組や催事の結果による特需状態が反映した可能性があるため、令和7年度以降の推移をみて検討していきたい。		

数値目標	項目	指定管理者制度導入コミュニティセンター数				目標種別	↑
	評価者	地域振興担当理事 蒲原 智之			担当課	地域づくり連携課	
施策	年度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
4-1	目標	—	3 地区	3 地区	8 地区	10 地区	
P48	実績	1 地区	3 地区	— 地区	— 地区	— 地区	
	評価	—	S	—	—	—	
	委員からの ご意見	P48「指定管理者制度導入コミュニティセンター数」のR9目標「10地区」の根拠は何か。宣言では、R8で5地区と言われていたが、市全体では39地区なのだから、そのうちの何地区までは導入するという目標の明示も必要なのではないか。（岩崎会長）					



検討	項目	(数値目標の見直し検討について)	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	R9目標「10地区」の根拠は、住民自治協議会連合会の地域ブロックが現在11ブロックで構成されていることです。1ブロックは規模が大きく、単独で住民自治協議会として運営されているため、目標をブロック1つとする考えから「10地区」と設定しました。なお、8年度には8地区の協議会が指定管理を担う予定です。目標は現状のままとしますが、市としては期限を設けず、全地区での指定管理を目指します。		

数値目標	項目	市役所利用者の通訳満足度				目標種別	↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	人権・多様性社会課	
施策	年度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
4-5	目標	—	70.0 %	70.0 %	70.0 %	70.0 %	
P52	実績	— %	— %	— %	— %	— %	
	評価	—	—	—	—	—	
	委員からの ご意見	P52「市役所利用者の通訳満足度」の目標が70%で一定なのは、消極的にすぎないか。むしろ、何ヶ国語に対応可能といった指標がいいのではないか。（岩崎会長）					



検討	項目	市役所利用者の通訳満足度				目標種別	↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	人権・多様性社会課	
施策	年度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
4-5	目標	—	70.0 %	80.0 %	85.0 %	90.0 %	
	実績	— %	— %	— %	— %	— %	
	評価	—	—	—	—	—	
	見直し内容 経緯・理由	新しい目標であるため、実績は不明であるが、目標を上げていくことの必要性は認識しています。通訳の言語数の対応については需給面、コストに見合う内容となるか精査が必要となるため指標とすることは難しいと考えております。					

数値目標	項目	家庭生活において男女の地位が平等になっていると思う市民の割合				目標種別	↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	人権・多様性社会課	
施策	年度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
4-5	目標	—	50.0 %	50.0 %	50.0 %	50.0 %	
P52	実績	28.7 %	29.3 %	— %	— %	— %	
	評価	—	E	—	—	—	
	委員からの ご意見	P52「男女の地位が平等になっていると思う市民の割合」の目標50%が一定なのはなぜか。現状から引き上げていく数値を示すべきではないか。また、50%の根拠は何か。（岩崎会長）					



検討	項目	(数値目標の見直し検討について)	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	現在の目標50%については、実績に見合ったものではないため目標を上げていくことは難しいと考えております。 目標の設定としては、過半数の方が男女の地位について認識することで、社会が大きく変容するものと考え、目標値として設定しました。		

数値目標	項目	特殊詐欺件数（1月～12月）				目標種別	↓
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	地域安全対策課	
施策	年度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
5-2	目標	—	5 件	5 件	5 件	5 件	
P56	実績	32 件	46 件	— 件	— 件	— 件	
	評価	—	E	—	—	—	
	委員からの ご意見	P56「刑法犯認知件数」は毎年減らすという目標であるのに対し、「特殊詐欺件数」は、目標件数を一定にしているのは何か理由があるのか。また、実態と乖離しすぎていないか。（岩崎会長）					



検討	項 目	特殊詐欺件数（1月～12月）					目標種別	↓
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	地域安全対策課		
施策 5-2	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度		令和8年度		令和9年度
	目 標	－	30 件	30 件		30 件		30 件
	実 績	32 件	46 件	－ 件		－ 件		－ 件
	評 価	－	E	－		－		－
	見直し内容 経緯・理由	令和5年を基準とした実態と乖離しない目標を設定し、被害件数の増加を防ぐことを最優先としながら、必要な対策を講じて現状を維持することを目指し、目標件数を一定に設定しました。						

数値目標	項目	住民自治協議会における地区防災計画の策定率				目標種別	↑
	評価者	防災対策担当参事 中井 和史			担当課	防災対策課	
施策	年度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
5-3	目標	—	20.1 %	27.9 %	32.6 %	34.9 %	
P58	実績	16.3 %	25.6 %	— %	— %	— %	
	評価	—	S	—	—	—	
	委員からの ご意見	P58「住民自治協議会における地区防災計画の策定率」は、R9で全体の約1/3程度の目標設定でいいのか。もっと策定を早める必要はないのか。（岩崎会長）					



検討	項目	(数値目標の見直し検討について)	目標種別	
	見直し内容 経緯・理由	地区防災計画の早期策定は理想であるが、本計画は地域からのボトムアップ型の計画であり作成のプロセスが非常に重要なものと考えている。また、策定には概ね2年程度かかることから、まずはハザード地区を中心に令和9年度目標を達成できるよう、策定支援に取り組んでまいりたい。		

数値目標	項 目	マイナンバーカード交付率				目標種別	↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	戸籍住民課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
7-1	目 標	－	83.00 %	85.50 %	88.00 %	90.00 %	
P76	実 績	80.60 %	90.69 %	－ %	－ %	－ %	
	評 価	－	S	－	－	－	
	委員からの ご意見	P76さすがに「マイナンバーカード交付率」の数値目標は変えるべきであろう。ただ、更新を見据えてというのであれば話は別かもしれない。（岩崎会長）					



検討	項 目	マイナンバーカード保有枚数率				目標種別	↑
	評価者	環境生活部長 武田 誉利子			担当課	戸籍住民課	
施策	年 度	令和5年度(基準)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	
	7-1	目 標	－	78.6 %	80.5 %	82.2 %	83.7 %
	実 績	73.1 %	78.3 %	－ %	－ %	－ %	－ %
	評 価	－	A	－	－	－	－
	見直し内容 経緯・理由	事業の趣旨から、マイナンバーカードを作ってもらった数を指標とする視点は外せない。 総務省が令和5年度から『保有枚数率』を公表するようになったことから、松阪市の人口に対して、死亡、転出等を除いたカードの保有率である『保有枚数率』を検討する。					